

ATHENA SOURCES IN THE HISTORY OF ART

The POSTER

An Illustrated Monthly Chronicle, 1898–1901



全6巻+別冊解説：菅 靖子(津田塾大学准教授)／山本 政幸(岐阜大学准教授)

鮮烈な存在感を示す19世紀末イギリス芸術雑誌『ザ・ポスター』全号復刻！
ポスターを新たな芸術ジャンルとして確立させた世紀末文化研究の重要資料。

Part 1: Volumes 1–3 (June 1898–February 1900) 全3巻

ISBN 978-4-86340-121-1 • B5判 • c. 1,050 pp., incl. 72 col. pp.

定価(本体95,000円+税) ▶ 2012年9月

Part 2: Volumes 4–6 (March 1900–April 1901) 全3巻+別冊解説

ISBN 978-4-86340-122-8 • B5判 • c. 800 pp., incl. 40 col. pp.

定価(本体84,000円+税) ▶ 2013年10月刊行予定

W. J. Rogers

Athena Press

世紀転換期イギリスの グラフィック・デザインの宝箱

菅 靖子 ● 津田塾大学准教授

情報の視覚化の起源は文明の誕生までさかのぼるが、近代グラフィック・デザインの発展は、白黒の文字刷りから挿し絵や色彩を取り入れたレイアウトへ転換したところに大きな契機がある。広告でいえば、これは「ビラ bill」もしくは「ただのポスター」から絵柄が主要な構成要素であるポスターへの動きであった。イギリスではこれがさらに発展して、20世紀初頭までには芸術性の高いポスターは「ポスター芸術」と呼ばれ、芸術形態のジャンルのひとつとみなされるようになった。

ポスターの制作技術面でイギリスがいかに進歩していたかは、「ポスターの父」とよばれるフランス人ジュール・シェレがリトグラフの技術習得のためにロンドンに赴いたという事実からもうかがえる。イギリスでは早くからポスターという広告メディアを芸術形態のひとつとして認識する土壌が形成されていた。美術と商業の橋渡しとなるポスターに芸術性をもとめた世界初のポスター展「芸術的絵画的ポスター国際博覧会」は1894年にロンドンのロイヤル・アクアリウムにて開催されている。

上述の博覧会の4年後、1898年に『ザ・ポスター』が創刊されたこ

とも、まさにこの流れに沿うものであった。この年は、質悪な商業広告の増加を問題視した人々によって公共広告乱用監視協会が設立された年でもある。「芸術的」なポスターへの社会的ニーズがひととき高まっていたといえるだろう。

『ザ・ポスター』には、日本でよく知られているオーブリー・ビアズレーだけでなく、商業広告を多く手がけたダドリー・ハーディやジョン・ハッサルらが頻繁に登場する。またシェレやアルフォンス・ミュシャ、スタンランなど、大陸で活躍したデザイナーによる作品も数多く紹介されており、19世紀末におけるグラフィック・デザインの相関関係がよくわかる。なかでも、当時流行していたアール・ヌーヴォー様式は、イギリスではあまり人気がなかったといわれるが、『ザ・ポスター』誌上にはこの様式の作品が数多く見受けられる点は興味深い。たとえばダドリー・ハーディは、ロイヤル・アカデミーに出展し「戦争芸術家」としても活躍していたが、フランスのポスターから多大な影響を受けたことがよくわかる。彼はその中から、やや硬質の、イギリス的とも呼べるアール・ヌーヴォーのデザインを発展させていったのである。

『ザ・ポスター』には、広告デザインに加えて、スタンランやハーディほか、作品が掲載されているデザイナーへのインタビュー記事や、彼らによるポスター論などのテキストも充実している。これはイギリスの美術デザイン史にとどまらず、イギリス文化史、そして広告史の貴重な一次資料である。

掲載作品アーティスト

Cecil Aldin
Arpad Basch
Aubrey Beardsley
The Beggarstaff Brothers
(William Nicholson and James Pryde)
Paul Berthon
William Bradley
Frank Brangwyn
Stewart Browne
Tom Browne

Henri Cassiers
Jules Chéret
Scotson Clark
Gordon Craig
Walter Crane
George de Feure
Charles ffoulkes
Harry Furniss
J. J. Gould
Jules Grün

Dudley Hardy
John Hassall
Henri Ibels
Henri Meunier
Victor Mignot
Albert Morrow
Alphonse Mucha
Pal (Jean Paléologue)
Edward Penfield
Henri Privat-Livemont

Ethel Reed
Louis Rhead
Alick Ritchie
Théophile-Alexandre Steinlen
Henri de Toulouse-Lautrec
Will True
Adolphe Willette
Jack B. Yeats
Mosnar Yendis
(Sidney Ransom)

掲載記事

■アーティスト紹介

Dudley Hardy • Privat-Livemont • Ethel Reed • William Bradley • Jules Chéret • Scotson Clark • Walter Crane • Charles ffoulkes • Robert Fowler • Toulouse-Lautrec • Beardsley • Tom Browne • Mucha • Arpad Basch • Victor Mignot • Henri Ibels, etc.

■インタビュー

Steinlen • John Hassall • Will True • Paul Berthon • Grün • Stewart Browne • Albert Morrow • Cecil Aldin • Walter Hill • Alick Ritchie • W. S. Rogers • Mosnar Yendis • Mucha • Harry Furniss, etc.

■トピックス

Art Programmes • Christmas Cards and Calendars • Some French Menus and Programmes • Japan and Posters • Pantomime Posters • Napoleon in Posters • The Applied Arts and Advertising • Dudley Hardy's Savoy Posters • The Royal Academy and the Artistic Poster • Sarah Bernhardt, Mucha, and Some Posters • Symbolism in Advertising • La Loie Fuller and Her Artistic Advertising • Posters for the Churches • Proposed Legislative Restrictions to Advertising • Railways Posters • Spanish Bull-Fighting Placards • Concerning the Advertisements of Steamship Services • Art and the Music Halls • Artistic Show Cards •

Commercial Progress vs Amateur Acstheticism • Lithography: Its Artistic Possibilities • Pictorial Postcards • On Poster Collecting • The Aerograph and Its Inventor • Curiosities of Theatrical Advertising • English Magazine Covers • Stanley Cock's Music-Hall Posters • Paris Exhibition Notes • Parliamentary Election Posters • The Gentle Art of "Cribbing" • The Collecting of Playbills • The Cabarets of Montmartre and Their Posters • Pictorial Book Advertisement in America • The Influence of Japanese Art on Poster Design • Chéret and Aubrey Beardsley: Their Comparative Influence on Poster Art

ほか多数

新しい美の夜明け

雑誌「ポスター」1898~1900

河村 錠一郎 ● 一橋大学名誉教授

1898年6月に創刊された雑誌「ポスター」は、世紀末に出現した新しい美の形に徹底してこだわり、その美に殉教して2年余で命を断った。同時期に現れた新時代芸術の旗手として有名な「ステュディオ」が、ピアズリーを特集し彼の表紙デザインで鮮烈なデビューを果たしながら延々と命を永らえて風化していったのに比べると、その存在感は鮮やかである。

「ポスター芸術」が生まれたのは、周知のように、ロートレック、ミュシャ、シェレ、など名だたるアーティストが街角芸術に進出してからのことである。イギリスではJ. E. ミレイの絵画（「子供の世界」1886年公開）が石版会社のポスターに転用されて大きな話題になり、また物議を醸したことはよく知られているが、これは版權を買い取られて転用されただけで、初めからポスター用に描かれたわけではない。「ポスター」に度々登場するのはJ. プライドと共同で「ベガースタッフ・ブラザーズ」の名で仕事をしたウィリアム・ニコルソンなど、馴染みの名もあるし、本誌で初めて知るデザイナーもいる。

雑誌「ポスター」はポスターを新たなアートのジャンルとして認識し、販売効果の観点でなく、あくまでアートとして評価する視点から、世のさまざまなポスターの紹介と批評を中心に据え、デザイナーへのインタビュー、デザイナーの短い伝記、外国ポスターとその作家たちの紹介・批評記

事、またコレクターたちの手引きや参考になる記事（対象はレストラン・メニュー、劇場プログラムなど広範囲）を載せている。さまざまな商品や演目や催しのポスターが俎上に上がっていること、そしてそれらが鮮烈な画像で紹介されているので、時代を写し出す鏡といってもよく、世紀の変わり目における社会を隅々まで照らして見せてくれる、貴重な歴史資料で、美術や文学（登場人物たちの嗜好品にいたるまでの情報など）だけでなく、史学や社会学など、さまざまな分野にとって重要な文献であり、図像資料集である。デザイナーと広告主・事業家との応酬（前者はアートに拘泥し後者は製品名や会社名を際立てることに拘る）なども記されていて、アートとはなにかをめぐめる美学上の資料としても無視できない。

私にとって発見だったのは、ポスター芸術の雑誌といいながらポスター関連だけでなく、一般の美術雑誌や美術展の記事もあって、この意味でも時代の証言者になっていることだった。創刊された1898年6月といえば、当時のイギリスを代表する巨匠バーン・ジョーンズが17日に亡くなっている。「ポスター」は7月号にその死を悼み、「芸術は長く、人生は短かし」の記事を載せた。「彼が目指したのは優美なものを再現描写するだけの魂の抜け落ちたアートではなかった。力に満ち、エネルギーに富み、なかなずく、目的を持っていた。一方にロマンスと詩、もう一方に自然といわゆるリアリズムという、稀有な結びつきを果たしていた」と評し、ラファエル前派の中で「もっともデコラティヴなアーティストだったし、今日のデコラティヴなポスターを目指す動きに少なからず影響のあった画家であった」と、この雑誌らしい指摘をしている。

図版満載で、漫然と頁を繰るだけでも楽しく、楽しみながら時代の相貌が具体的に読み取れる本誌は、さまざまな分野で貴重な資料として役立つに違いない。

遊歩者のためのカタログ

大久保 譲 ● 埼玉大学准教授

The Poster は1898年6月に創刊され、1900年末までのわずか二年半、正確に19世紀末と併走した美術雑誌である。ロートレックやミュシャの活躍によりヨーロッパ大陸で隆盛を極めていたポスター芸術を、英国に普及させるという理想が創刊号には掲げられていた。一頁あたり二葉・三葉と、ふんだんに図版を使用して、ヨーロッパ大陸の美麗なポスターを紹介し、同時に低評価に甘んじている英国の然るべきポスター作家を顕揚する。返す刀で、単なる「商業目的」に堕したポスターは手厳しく論難し、芸術性に理解のない広告主の横行を嘆く。毎号掲載されるポスター作家たちへのインタビューでも、「商業性」と「芸術性」の対立が繰り返し話柄にのぼる。ポスターを、その宣伝する商品と切り離し、芸術としての側面のみで評価するという姿勢は、本誌において一貫している。その一方、これは興味深い矛盾だが、ポスターそのものは紛れもなく商品として取り扱われている。なにしろ、掲載されたポスターは編集部を通じてすべて頒布可能だと謳われているのだ。そう、この雑誌はポスター収集家に向けられたカタログでもあった。

この雑誌の記事が、いずれもベンヤミンのいう遊歩者（フラヌール）の

視点で書かれているのは面白い。代表的なのが「Hoardings」（広告板）と題された連載記事で、毎月、ロンドンの街頭に飾られたポスターを取りあげ、論じるのだ。評者は街をさまよい、めぼしいポスターを探し回る。演劇のシーズンともなればいそいそと劇場に赴き、しかし劇そのものには触れずに、新たに登場したポスターについて嬉々として書く。パリ、アムステルダムといった海外特派員の記事も同様で、それぞれの街を歩きながら、目に留まったポスターを論評していくというスタイルが取られている。*The Poster* の副題は *An Illustrated Monthly Chronicle*、街角に一定期間だけ掲示されては消えていくエフェメラルな芸術を記録した、確かにこれは得難いクロニクルなのだ。

ただし、しばしば指摘されるように、19世紀都市の遊歩者の視線がそのまま男性の視線であることは言うまでもない。ある記事では端的にこう書かれている。「パリ特派員が適切に述べたとおり、女性が中心的な役割を担っているということがポスター芸術の原則と言えよう。私はそれにつけ加えたい、女を探せ（シェルシェ・ラ・ファム）、と」。そして遊歩者の視線にさらされたポスター＝女性は、先に述べたとおり、そのままコレクターによって収集の対象にもなる。ほとんどの号で表紙に女性像があしらわれているのも、この雑誌の言説空間が、徹底して遊歩者にして収集家たる男性のまなざしに支えられている証左にほかならない。美麗な図版の数々を眺めているだけでも楽しい *The Poster* だが、「美しさ」を「楽しむ」その視線のありよう自体に反省を迫ってくるという点において、文化史の研究者にとってはいっそう貴重な雑誌になっている。

The Posterについて

The Poster は、収集に値する芸術品としてポスターを評価した 最初のイギリス雑誌で、1890年代の広告業界に深いかわりがあったアーティストやポスターの業者、収集家、また広告業関係者や印刷業者に対し主導的な役割を果たした、特徴的な雑誌です。

さまざまなポスターアーティストへのインタビューや来歴紹介、出版物や展覧会の評論、海外のポスター事情、広告の歴史、ポスターを含む広告ツールの流行の変化や技術的な進化などが掲載され、そのほかデザインや広告プロデュースに関する様々なことが扱われています。ピラやチラシ、プログラム、クリスマスカード、カレンダー、招待状、レストランのメニューなど使い捨てられる類のものまで含まれています。

この復刻は、補遺のModern Advertising と、改題した後の1901年の刊行分を含め、The Poster 全号を、フルカラーのページもそのままに扱います。本誌の全号揃いは今や格段に貴重です。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

<http://www.athena-press.co.jp>

【取扱書店】